



## 会社を1年未満で辞めてしまうことを どう思いますか？



先日、こんな数字が巷のニュースから目に入ってきました。

「H29年3月高卒者、3年以内の離職率は39.5%。」実に約4割の高校生が、在校中にあんなに一生懸命面接練習をしたのに、入社後3年未満で会社を辞めてしまっているわけです。本校でも全国平均的には少ないですが、残念ながら入社後1年未満で辞めてしまった卒業生が現時点でも何人かいます。会社としても元気ある若手を採用して組織の新陳代謝を促したいところなのに、なぜ半数近い高校生が3年以上仕事を続けることができないのでしょうか？

企業を訪問し、卒業生や人事担当者のお話を伺ってわかってきたことがあります。会社を辞めた離職理由として、「仕事が合わなかった（ミスマッチ）」ということを一にあげる卒業生がダントツに多いのですが、実はそれは**口実にすぎない可能性が高いのです**。例えば、1年目に「仕事がキツイ、忙しさが半端ない、正直やりがいとかがまだよく分からない。」と、仕事内容や労働条件に不満を言う卒業生も中にはいます。ですがその後、「でも先輩がやさしく教えてくれる。」という言葉が続く卒業生は、2年目に出会うと後輩に仕事を教えながら「お久しぶりです。」なんて、落ち着いた笑顔をこちらに見せてくれることが「あるある」です。反対に、「先輩はちゃんと仕事を教えてくれないし直属の上司とも合わなくてしんどい。」ということを初めに言う卒業生は1年未満で辞めてしまう傾向があります。そしてその後続く言葉は、「これで給料が他よりいいとか、仕事にやりがいがあるならまだ続けようとは思いますが・・・。」つまり、「人間関係がトリガー（引き金）」となって、仕事のやりがいや働く意欲が左右されてしまい1年ともたない」という悪循環がそこにあります。



「会社を1年未満で辞める人と辞めない人」この違いは何なのでしょう？



実は、「人間関係はいいです。」という卒業生は、本人も人間関係を良好にするための努力を気がつかないうちにしているものです。実際に彼らに、「周りの方々に恵まれたね、とは言うもののそれは貴方自身が人間関係を楽にするために努力してきた結果でもあるんじゃない？」と聞くと、ほぼ全員が嬉しそうにニタッと笑ってうなずきます。「そういえば、最初は先輩に色々と気を遣ったなあ。」と。そもそも知り合いすらいない新しい環境に初めて入る新人にとって、最高な人間関係が始めからそこに転がっているわけがありません。「どうにかしてここに馴染んでやろう」というちょっとした気合い？のような意識が始めに働いて、わからないことがあれば聞きにくくても、「すみません、確認のためにもう一度教えて頂けますか？」と、時には詫言ながら先輩を追いかけていく努力があったからこそ、3ヶ月くらいたった後に人間関係で少し楽になっている自分に気づけるのでしょうか。

※もちろん、本人がこのように努力しても、特定の上司・先輩から理解してもらえずいわゆるパワハラを一方向的に受けている、あるいは労働条件が求人票とは違っていたというようなケースは除きます。

以前、5年以上会社に定着している卒業生だけにこんな取材をしたことがあります。

### 「新入社員の時に心がけていたコミュニケーションベスト3」

- 1、指導社員の方にミスを叱られる覚悟で報告・連絡・相談をマメにしていた。
- 2、教えてもらったら「ありがとうございました。」お礼とあいさつはしっかりと。
- 3、時には休憩時間に自分の方から自己開示。こちらから話を振ったりして会話をしてみたら、上司と共通の趣味があって急に色んな事がやりやすくなった。



平成生まれの高校生の皆さんにとっては少々昭和っぽい感覚かもしれませんが、平成から令和の時代となった今でも、米工卒業生達の上記ベスト3は実はあんまり変わっていませんよ。

★次回は「現場で働く卒業生の声」をお届けします★

